

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和元年6月24日現在

機関番号：22401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K11821

研究課題名(和文) 独居の高齢2型糖尿病患者へのPerson-centred Careモデルの開発

研究課題名(英文) Development of a person-centred care model for elderly patients with type 2 diabetes living alone

研究代表者

山岸 直子 (YAMAGISHI, NAKO)

埼玉県立大学・保健医療福祉学部・准教授

研究者番号：10320821

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は独居の高齢2型糖尿病患者の自己管理を支援するためのPerson-centered Careモデルを開発することを目的とした。概念分析と、熟練看護師、独居の高齢2型糖尿病患者を対象とした質的研究の結果に基づき、モデルを作成した。Person-centered Careモデルは、【何でも話せる信頼関係の構築】、【全人的アセスメント】、【患者の望む生活や目標の共有】、【患者の状況に合わせた自己管理を促進する支援】、【生活を整える支援】、【生活の楽しみを維持・向上する支援】、【家族サポートや社会資源の調整】で構成された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、先行研究がほとんどない独居の高齢2型糖尿病患者ケアに関する研究であり、独居の高齢2型糖尿病患者を対象とした初めてのPerson-centred Careモデルの開発である。本モデルは、Person-centred Careの概念分析に加え、独居の高齢2型糖尿病患者を対象とした質的研究と、外来で個別看護相談を実施している熟練看護師を対象とした質的研究の結果を統合したモデルである。これにより、患者側と看護師側双方の視点を統合した、多角的で現実的な看護モデルの開発を行うことができた。本モデルの開発により、看護師が効率的に独居高齢2型糖尿病患者の自己管理支援につなげることができると考える。

研究成果の概要(英文)：The aim of this study was to develop a person-centred care model for elderly patients with type 2 diabetes, who are living alone. The model was based on the results of a concept analysis, conducted on qualitative research related to expert nursing care, as well as elderly patients with type 2 diabetes, living alone. Our person-centred care model includes the following elements: building a trusting relationship enabling honest discussions; holistic assessment; sharing patient's desired life and goals; supportive promotion of self-management; support for improving life; support for maintaining and promoting the patient's enjoyment of life; and adjustment in terms of family support and social resources.

研究分野：慢性看護

キーワード：独居 高齢2型糖尿病患者 Person-centered Care 看護支援

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

我が国で糖尿病患者は増加しており高齢者において割合が高い。高齢者および独居者は年々増加しており、今後、独居の高齢糖尿病患者も増加の一途をたどることが予測される。

高齢糖尿病患者は、高齢者以外の者に比べ多くの因子が療養法の自己管理に影響を与えている (Munshi et al., 2013; Wilson, 2012)。また、独居者は既婚者よりも療養法の自己管理を実行・維持している人が少ない (Michael et al., 2003)。同居者と生活していることでの心理的・実践的な支援がないため脆弱さが増大し、緊急再入院や死亡するリスクが高い (Murphy, 2008; Kitamura et al., 2013) ことが報告されている。加えて、高齢糖尿病患者ケアに焦点を当てた研究は少数であり、独居の高齢 2 型糖尿病患者に焦点を当てた研究はほとんどない。

糖尿病患者の支援において、熟練看護師は患者との信頼関係を築くことを基盤とし、患者にとっての意味も含めて生活を把握する、患者の思いや価値観、生活の質を最優先にした自己管理の目標を患者と共に考え、生活スタイルや自己管理能力に合わせた実践可能な療養法を患者と共に見出していた (山岸, 2010)。これは、患者の価値観、習慣、好みなどを含む生活状況の理解に基づく個別的で、患者の意思決定を尊重した Person-centred Care の概念と共通しており、糖尿病患者の支援における Person-centred Care の重要性が明らかとなった。Person-centred Care は、Kitwood (1997/2005) が、関係や社会的な文脈の中で人として認める、尊重と信頼を大切にするという認知症ケアの理念として提唱したものである。その後、認知症ケア以外の分野でも研究が行われるようになってきているが、糖尿病ケア分野では、医師の治療に関する研究がいくつかみられるが、看護に関する研究はほとんどなく、独居の高齢 2 型糖尿病患者に焦点を当てた研究はない。したがって、独居の高齢 2 型糖尿病患者の自己管理を支援するための Person-centred Care モデルの開発が求められる。

2. 研究の目的

本研究では、独居の高齢 2 型糖尿病患者の自己管理を支援するための Person-centred Care モデルの開発を行うことを目的とした。具体的目標を下記に示す。

- A. 慢性疾患患者ケアにおける Person-centred Care の概念を明確化する。
- B. 独居の高齢 2 型糖尿病患者に対する看護師の姿勢、看護支援の実際、工夫点や困難な点など、看護支援の実態と課題を明らかにする。
- C. 独居の高齢 2 型糖尿病患者に対する Person-centred Care モデルを作成する。

3. 研究の方法

A. 慢性疾患患者ケアにおける Person-centred Care の概念分析

(1) デザイン

Rodgers(2000)の分析方法に基づき、慢性疾患患者ケアにおける Person-centred Care の概念分析を行った。

(2) 文献検索およびデータ収集

文献検索は、MEDLINE、CINAL、医学中央雑誌のデータベースを用いて行い、文献検索で抽出された文献より、慢性の病いをもつ人を対象とした看護師が実践する Person-centred Care が主要テーマの研究を選定し分析した。検索結果から、慢性の病いをもつ人を対象とした看護師が実践する Person-centred Care が主要テーマの文献を 16 件選定し、さらにこの分野で含めた方がよいと思われる文献を 9 件追加し、合計 25 件を選定した。25 件のうち Person-centred Care という用語を使用した 7 文献を分析対象とした。

(3) データ分析

Person-centred Care という用語を使用した 7 文献のデータを、属性、先行要件、帰結ごとに分け、関連する内容ごとにカテゴリー化した。

B. 独居の高齢 2 型糖尿病患者への看護支援の実態と課題に関する調査

(1) デザイン

独居の高齢 2 型糖尿病患者への看護支援の実態と課題の焦点化のための熟練看護師を対象とした質的記述的研究を行った。

(2) 研究参加者

独居の高齢 2 型糖尿病患者に対し、外来で看護個別相談を行っている糖尿病看護 5 年以上の臨床経験をもつ熟練看護師を対象とした。

募集方法は、糖尿病患者を診察している病院の看護部長または診療所の院長を通じた募集、研究協力の承諾を得た研究参加者や研究者の知人からの紹介で行った。募集の際は、研究参加

者の紹介を依頼した者から、研究参加者に研究対象者募集の文書と意思表示カードを配布してもらった。研究代表者から直接研究について説明を聞くことに了承した場合に、研究代表者宛てに意思表示カードの返信、または E-mail や電話で連絡をしてもらった。そして、研究代表者から研究参加者に、本研究の概要および研究参加に伴うリスク・不都合とその対処、協力への任意性の保証、個人情報の保護などの倫理的配慮について口答と文書で説明をした。研究参加の同意が得られた場合は、同意書に署名をもらった。

(3) データ収集

データ収集は、プライバシーの保てる個室で半構造的インタビューガイドを用いてインタビューを行った。インタビューでは、独居の高齢 2 型糖尿病患者への支援で効果的支援が行えたと思う事例と、あまり効果的な支援が行えなかったと思う事例を振り返ってもらい、それぞれ 1 事例ずつ患者への支援の実際について話を聞いた。具体的には、患者の支援を行っていく上で、どのような状況を考慮して情報を得たり、関わりを行ったりしていたか、どのようなことを大切にしながら関わっていたかなどを尋ねた。インタビューは 1 人 1 回 60 分程度行った。インタビュー内容は、研究対象者の同意を得て IC レコーダーに録音およびノートに記録した。

(4) データ分析

データは質的記述的研究方法に基づく分析を行った。インタビューで得た IC レコーダーに録音したデータを逐語録に起こした。分析は、始めに参加者 1 人ずつ行った。逐語録に起こした全てのデータを前後の文脈の区切りをつけ、そのデータが示している内容の本質を捉えた特徴をよく表すコードをつけた。次に似たような意味をもつコードを集めてグループにし、集まったコードを説明する名前をつけサブカテゴリーとした。さらに似たような意味をもつサブカテゴリーを集め、集まったサブカテゴリーを説明する名前をつけカテゴリーとした。1 人ずつの分析の終了ごとに、それまでに得たデータと統合し、独居の高齢 2 型糖尿病患者への看護支援の実態や課題に関するカテゴリーおよびサブカテゴリーを整理した。

C. 独居の高齢 2 型糖尿病患者に対する Person-centred Care モデルの作成

A と B、および既に取り組んでいた独居の高齢 2 型糖尿病患者を対象とした質的記述的研究の結果に基づき、独居の高齢 2 型糖尿病患者に対する Person-centered Care モデルの構築を行った。

4. 研究成果

A. 慢性疾患患者ケアにおける Person-centred Care の概念分析

概念分析の結果、Person centred Care の属性では、【慢性の病いをもつ人との信頼関係の構築】、【全人的ケア】、【慢性の病いをもつ人の視点を自己管理に組み込んだ個別的ケア】、【自己管理に向けた慢性の病いをもつ人と看護師の協働】、【自己管理能力のエンパワーメント】といった特徴が明らかになった。また 先行要件では、【組織的ケア環境】、【看護師の経験の内省】という要素が見いだされ、帰結では、【自己管理の向上】、【健康アウトカムの向上】、【経済的効果】、【ケアの質の向上】が明らかになった。

B. 独居の高齢 2 型糖尿病患者への看護支援の実態と課題に関する調査

(1) 研究参加者の概要

研究参加に同意を得た 16 名の熟練看護師の臨床経験の平均は 22.9 年、糖尿病ケア経験の平均は 18.0 年であった。また、慢性疾患看護専門看護師が 2 名、糖尿病看護認定看護師が 9 名であった。インタビューは 1 人 1 回実施し平均時間は 65.8 分であった。

(2) 分析結果

熟練看護師は、【何でも正直に話し合える信頼関係の構築】、【患者の立場に立ち共感する姿勢】、【患者と共に取り組む姿勢】を基盤としていた。そして【価値観や将来の目標の把握】をし、問題探求のために、生活状況、身体・認知機能、経済状況などの【生活力や自己管理能力】、薬物療法の実施状況や低血糖リスク、食事回数や内容、外出や運動状況などの【療養法の安全性や適切性】、家族サポートや社会とのつながりといった【家族・社会サポート】、負担感や孤独感、配偶者との死別後の悲嘆、生活の楽しみといった【精神的健康や生活の楽しみの維持】をアセスメントしていた。そして、【安全で現実的な将来の目標に沿った自己管理支援】、【生活の楽しみを維持し将来の生活も見据えた支援】を行い、必要時には【家族サポートや社会資源の調整】を行っていた。

これらの結果から、独居の高齢 2 型糖尿病患者の支援では、生活力や心身状態、家族・社会サポート状況などによる自己管理への影響をアセスメントし、問題を早期に捉え、安心・安全で現実的な本人の目標に沿った支援、生活の楽しみを維持し将来の生活も見据えた支援が重要であることが明らかとなった。また、必要時には家族サポートや社会資源につなげる支援の重

要性が示唆された。

C. 独居の高齢 2 型糖尿病患者に対する Person-centred Care モデルの作成

既に取り組んでいた独居の高齢 2 型糖尿病患者を対象とした質的研究では、自己管理に関連する 11 の主な要因が抽出され、それらの要因は複雑に関連し合っていることが明らかとなった。そして、合併症発症・進展予防のための自己管理を促進する看護支援、さらに生活の楽しみを維持・向上するための看護支援の重要性が示唆された。この患者を対象とした研究、および熟練看護師を対象とした研究、さらに person centred care の概念分析の結果に基づき、独居の高齢 2 型糖尿病患者に対する Person-centred Care モデルを作成した。

Person-centered Care モデルは、<患者の世界を理解しようとする姿勢>、<できたことを認め成果の提示>、<行動変容を信じ促す関わり>といった【何でも話せる信頼関係の構築】を基盤とした。そして、<ソーシャルサポート>を中心とした<経済状況>、<孤独感>、<負担感>、<生活の楽しみ>、<知識>、<認識>、<身体・認知機能>、<生活力>、<工夫や生活への組み込み>、<取り組みの成果>といった自己管理と関連する要因に焦点を当てた【全人的アセスメント】、<患者の望む生活や目標の把握>、<残された生・死に対する意向の確認>といった【患者の望む生活や目標の共有】という要素が含まれた。加えて、安心・安全な生活、合併症の発症・進展予防のための【患者の状況に合わせた自己管理を促進する支援】や【生活を整える支援】、さらに、日常生活全体や人生に対する主観的な満足感や幸福感などの主観的 QOL 向上のために、<配偶者との死別後の悲嘆状況に合わせた関わり>や、<孤独感の軽減>、<負担感の軽減>をはかり【生活の楽しみを維持・向上する支援】、必要時に行う【家族サポートや社会資源の調整】の要素で構成された。今後、作成したモデルの妥当性の評価を行っていく必要がある。

〔文献〕

- Kitwood, T. (1997/2005) 高橋誠一(訳). 認知症のパーソンセンタードケア - 新しいケアの文化へ -. 筒井書房.
- Michael, V., Laurie, R., Geoffrey, G., Helen, J., & Bernard, Z. (2003). Stage of change for healthy eating in diabetes. *Diabetes care*, 26 (5), 1468-1474.
- Munshi, M. N., Segle, A. R., Suhl, E., Ryan, C., Sternthal, A., Giusti, J., ... Weinger, K. (2013). Assessment of barriers to improve diabetes management in older adults. *Diabetes Care*, 36 (3), 543-549. doi: 10.2337/dc12-1303
- Murphy, B. M., Elliott, P. C., Le Grande, M. R., Higgins, R. O., Ernest, C. S., Goble, A. J., ... Worcester, M. U. (2008). Living alone predicts 30-day hospital readmission after coronary artery bypass graft surgery. *European journal of cardiovascular prevention and rehabilitation*, 15 (2), 210-215. doi: 10.1097/HJR.0b013e3282f2dc4e
- Rodgers, B. L. (2000). Concept Analysis: An Evolutionary View. In Rodgers, B. L., & Knafl, K. A. (eds.), *Concept Development in Nursing: Foundations, Techniques, and Applications* (2th Ed.) (pp.77-102), Saunders.
- Wilson, V. (2012). Evaluation of the care received by older people with diabetes. *Nursing Older People*, 24 (4), 33-37.
- 山岸直子, 外崎明子. (2010). 2 型糖尿病患者に対する熟練看護師の姿勢とアセスメント - 食事療法の自己管理が困難な患者の支援に向けて -. *日本糖尿病教育・看護学会誌*, 14(2), 138-146.

5 . 主な発表論文等

〔学会発表〕(計 8 件)

山岸直子, Person-Centered Care の概念分析 - 慢性疾患患者ケアにおいて -, 第 20 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会, 2015 年 9 月, 高松.

Naoko Yamagishi, Towako Katsuno, Support Needs of Self-Management in the Elderly People with Type 2 Diabetes who are Living Alone, 19th East Asian Forum of Nursing Scholars, 2016 年 3 月, Chiba, Japan.

山岸直子, 独居の高齢 2 型糖尿病患者の自己管理における支援ニーズ, 第 21 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会, 2016 年 9 月, 甲府.

山岸直子, 独居の高齢 2 型糖尿病患者の食事療法の自己管理の実際と支援ニーズ, 第 22 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会, 2017 年 9 月, 福岡.

Naoko Yamagishi, Towako Katsuno, Status of nursing support for elderly patients with type 2 diabetes living alone in Japan, TNMC & WANS International Nursing Research Conference 2017, 2017 年 10 月, Bangkok.

Naoko Yamagishi, Towako Katsuno, Feeling of Loneliness and Self-Management -A Comparison between Type 2 Diabetic Elderly Living Alone and with a Cohabitant-, 21st East Asian Forum of Nursing Scholars & 11th International Nursing Conferences, 2018 年 1 月, Seoul.

山岸直子, 高齢 2 型糖尿病患者の食事療法の自己管理と関連する要因 - 独居者、家族と同居者との比較 -, 第 23 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会, 2018 年 9 月, 水戸.

Naoko Yamagishi, Towako Katsuno, Status of nursing care for elderly patients with type 2 diabetes living alone in Japan(Part 2), 22st East Asian Forum of Nursing Scholars & 11th International Nursing Conferences, 2019 年 1 月, Singapore.

6 . 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：勝野とわ子

ローマ字氏名： Katsuno Towako

所属研究機関名：岩手保健医療大学

部局名：看護学部

職名：教授

研究者番号 (8 桁): 60322351

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。